

議長（黒沢義久君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

14番片野宗隆君の発言を許します。

〔14番 片野宗隆君登壇〕

14番（片野宗隆君） 通告順におきまして一般質問を行います。

財政の健全化対策について。

それでは通告しておりました財政健全化について質問させていただきます。なお、通告しております2点目の経常収支比率については、昨日の同僚小林議員からの質問がありまして、それに対し理解をいたしました。それを除きまして。

本市だけではなく、地方財政を取り巻く環境が厳しいのは承知しているところではありますが、そうした中で本市ではこれまでに行政改革を進めながら、財政の確保など財政の健全化に努めていたところであります。今日の財政の健全化対策について次の2点質問をいたします。

最初に人件費についてであります。

一般会計予算に占める人件費の比率は平成21年度24.4%、平成22年度は23.3%と見込んでおります。これは区市町村の比率を上回っている現状となっております。この人件費については、市町村の状況によって違いがありますが、一概に比較はできません。本市が市町村より一般会計予算に占める人件費の比率が高い原因はなぜなのか。また、改善策をどのように考えているのか、お伺いをいたします。

次に、財政の見通しについてであります。

市民が安心して暮らせるためには、財政の健全化が基本となっているわけでありましたが、平成22年度の予算議会に当たり、改めて再認識のために本市の健全化の状況について伺いたいと思います。

また、合併して5年が過ぎ、これまでまちづくりが進められてきましたが、その中で、平成16年度から平成22年までの合併特例債の発行額についてお伺いをいたします。

以上で1回目の質問を終わります。

議長（黒沢義久君） 答弁を求めます。総務部長。

〔総務部長 川又善行君登壇〕

総務部長（川又善行君） 財政健全化対策についてのご質問にお答えをいたします。

最初に人件費についてでございます。

本市の人件費の比率が高い理由ということでございますけれども、1点目としましては市は生活保護、児童扶養手当、特別障害者、福祉手当など福祉に関する事務を行っておりますので、町村に比べると職員数が多く必要となります。2点目としましては、本市はし尿処理、ごみ処理、消防業務など市で行っております。これらの運営を一部事務組合で行っている市町村はその経費についてすべて補助費等で処理されますので、本市の場合これらに係る経費が人件費や公債費として経理されることとなりますので、組合で運営している団体より人件費の比率が高くなるわけでございます。3点目としましては、本市は4市町村の合併を行っておりますが、合併前にそれぞれの団体において、必要な人員措置を行っているため、一般的に合併市町村の数が多い市町村

ほど人件費が高くなります。4点目としましては、面積が広大であること、5点目としましては、公立の保育園、幼稚園が多いことなどもその要因となっていると考えているところでございます。改善策につきましては、現在職員の定員適正化計画を策定しまして、81名の職員数削減に取り組んでいるところでございますので、計画の着実な実行を図るとともに、さらに平成22年度からの新たな定員管理適正化計画によりまして、その着実に進行することによって、人件費の削減を図ってまいりたいと考えております。

次に、財政の健全化判断についてでございます。

これは、平成20年度決算に基づくものでございます。健全化判断比率については、平成21年9月定例会において報告させていただいているところでございますけれども、実質赤字比率につきましては、4億7,016万6,000円の黒字で決算しておりますので、昨年度に続きまして該当がございません。連結実質赤字比率につきましても、水道事業会計、国民健康保険特別会計などすべての会計において、赤字額または資金不足額が生じておりませんので、昨年度に引き続き該当がございません。実質公債費比率につきましては、13.7%となっており、昨年度より0.5ポイント減少しております。将来負担比率につきましては、78.6%となっておりまして、昨年度より13.1ポイント減少しております。また、資金不足比率につきましては、いずれの企業会計においても、資金不足額はなく昨年度に引き続き該当はございません。なお、いずれの比率も早期健全化基準を下回っておりますので、現在のところ、本市が財政再生団体、あるいは早期健全化団体となる可能性は極めて低いものと認識してございます。

次に、合併特例債の発行額についてでございます。

本市の合併特例債の発行額は平成16年度から平成22年度までで合計55億1,550万円になるものと見込んでございます。元利償還金の70%が地方交付税に算入されるという大変有利な起債でございますので、将来の住民負担に配慮しつつも積極的な活用を図って、この合併特例債を活用しまして、まちづくりの推進につなげてまいりたいと考えております。

以上です。

議長（黒沢義久君） 14番片野宗隆君。

〔14番 片野宗隆君登壇〕

14番（片野宗隆君） ご答弁ありがとうございました。

今後とも行政改革を進める上で、健全化財政を維持し、そして一層の地域の活性化を図るために合併特例債の有効な活用により、まちづくりに進めていただきたいと思います。そういう中で、私の質問の中でも一番大事なのは私が去年に視察研修しました夕張市の件でございます。これは一番全国でも珍しい破産された市であるということでは有名になって、皆さんもご存じかと思っております。その中で、夕張というところに視察に行きましたところ、もう本当に新聞紙上に載せられてあっという間の市民たちの感情が発散しまして、アパート、県営住宅、あらゆる借地のところから電気が消えてひっそりした環境になっていたと。本当に寂しい状況でありました。そういうことのないように常陸太田市もしっかりとしたこれからの大きな課題を進めていきたいなと思うわけでありまして。県庁に行って県からいただいたんですが、こういうしおりの中で、常

陸太田市の財政が本当に率の悪い、一番最下位の場面に載せられているわけなんです。これもやはり議員一人ひとりが真剣になって、執行部の期待よりは皆さんとともに勉強するのも一番大きな問題点であると思います。何しろ、320億円の負債を抱えておりますので、夕張では353億円の負債を抱えておるわけでございますので、大変な財政に入っているわけでございますから、常陸太田市もそれに負けずに真剣に取り組んでいただきたいと、私はこの場をお借りして説明をいたすところでございますので、今後ともなお一層の勉強をやっていただきたいというように思います。そうでないとこれからの市はどうなるのかと。今の施政方針の中で市長のを私も読んで、私と考えが一致しているというところでは大事なことでありますので。これは市のほうからいただいたもので、アンダーラインでなっておりますから。これは私がチェックした中でのこれマイナスのところなんです。こういうこともやはり皆さんとともに勉強する余地があるということ伝えて私の一般質問を終わります。